

岐阜農林事務所の普及活動状況 令和8年3月31日現在

今月の重点活動

■水稲 高温対策研修会で情報提供

3月13日に岐阜市のJAぎふアグリパークにおいて、「JAぎふ水稲高温対策・BS資材研修会」が開催された。本研修会は、近年頻発する猛暑による高温障害への対応のため、各地域の水田農業担い手協議会会員を対象として、高温条件下でも安定した水稲生産を行うための技術について理解を深めることを目的に、JAぎふが開催したものである。当日は、生産者をはじめ、JAぎふ、JA全農岐阜、岐阜農林事務所の関係者ら約60名が参加した。



【研修会の様子】

研修会では、農林事務所が講師を務め、水稲栽培管理における高温対策について説明を行った。特に、高温による登熟不良や品質低下を軽減するための土づくりや施肥管理のポイントについて解説するとともに、高温条件下でも安定した収量・品質が期待できる高温耐性品種「にじのきらめき」について、その特性や栽培上の留意点を紹介した。

また、高温対策に資するバイオスティミュラント（BS）資材について、JA全農岐阜から導入の目的や使用時期、活用に向けた考え方について説明された。

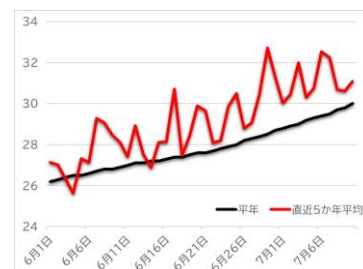
農林事務所では、今後もJA営農担当者や関係機関と連携し、研修会や現地指導を通じて、高温条件下における水稲の安定生産と品質向上に向けた支援を継続していく。

(地域支援第二係)

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■水稲 山県市における令和8年産米の直播栽培支援

山県市では、既存の担い手に農地集積が進む傾向にあるが、集積される圃場は中山間地特有の小区画筆が多く、作業効率が悪いいため水稲の移植作業は6月下旬まで、時には7月上旬にも及んでいる。ここ数年は、6月中旬から最高気温が30℃を超える日があり、作業者の安全性のためにも猛暑下の移植作業を軽減したいとの思いが強くなっている。そこで複数の担い手が令和8年産の水稲栽培において直播栽培を拡大させる。



【近年の6-7月日最高温度】

例えば、酪農と水稲の複合経営農家では、令和7年度、WCS（稲発酵粗飼料）用稲の生産に加え、令和の米不足を受けて主食用米の面積を拡大させたが、苗の供給の都合からWCS用稲は6月下旬以降の移植とせざるを得なくなりました。そこで、農林事務所ではこれまで移植栽培のみで行ってきたWCS用稲を令和8年産は直播栽培を組み合わせた栽培とすることを提案し、併せて直播用の施肥設計についても提案した。

今後は、直播栽培を組み合わせたことによる作業体制改善の効果確認とWCS用稲の安定収量の確保に向けて支援する。

(地域支援第一係)

■小麦 穂肥散布が始まる

岐阜地域では営農組合や大規模個人農家が稲刈後の水田を活用して小麦を栽培しており、令和8年産は「タマイズミR」が約525ha作付けされている。

小麦は粒数確保と粒の充実を図るため、出穂前30～40日頃の幼穂形成期（タマイズミRの場合、3月1～2半旬頃）に、穂肥として化成肥料を窒素成分で10aあたり4.2kg施用することとしている。

穂肥はタイミングが早すぎると生育後期に肥料切れを起こして粒が小さくなり、反対に遅すぎると粒数が十分確保できず、収量低下を招きやすくなる。そのため、生育状況を確認しながら、適期に散布作業を行う必要がある。今年の2月は平年よりも暖かく、昨年と比較して4～7日程度生育が早まったことから、急遽、予定を早めて3月初旬から穂肥散布を開始した。

今後、農林事務所では、継続的に生育状況を把握するとともに、赤かび病対策等について指導し、令和8年産小麦の安定生産を図っていく。



【穂肥の時期を迎えた
タマイズミR】

(地域支援第二係)

■トマト 糸貫トマト振興会栽培研修会を開催

3月12日にJAぎふ糸貫流通センターにおいて、収量向上を目的とした「糸貫トマト振興会栽培研修会」を開催した。本振興会は若い生産者が多く、来年度には新たに1名が加わり、会員は10名となる予定である。

研修会では、県農業技術センターから高温対策に向けて実施した遮熱剤の実証試験の結果やトマトの品種特性について説明があり、参加した生産者の間で、来年度の品種選定や高温対策に関する活発な意見交換が行われた。

また、農林事務所からは、近年、現地で課題となっているコナジラミ類への対応について、今年度実施した微生物農薬の実証試験の結果を踏まえて説明を行ったほか、ぎふ清流GAPの実践に向けたポイントについても紹介した。

農林事務所ではトマトの安定生産に向けて、今後も引き続き関係機関と連携し、実証試験の実施等を支援していく。



【熱心に説明を聞く生産者】

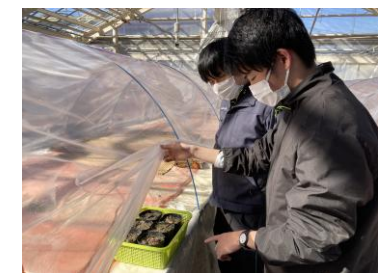
(園芸産地支援第一係)

■えだまめ JAぎふえだまめ部会役員会を開催

3月4日、JAぎふ清流支店において、JAぎふえだまめ部会役員会が開催された。当日は、JAぎふえだまめ部会役員と関係者合わせて24名が出席した。

本役員会では、令和7年度の課題を踏まえ、JAぎふからえだまめ出荷要領の見直しや、令和8年度に行う産地実態調査についての説明がされた。農林事務所からは、えだまめの生産量増大に向け、有望品種選定に向けた品種試験や夏期の高温対策に向けた実証試験について説明した。

農林事務所では、今後も生産者や関係機関と連携し、生産量増大に向けた実証試験を行い、えだまめの安定生産に向けた技術提案を行っていく。



【えだまめ発芽試験の様子】

(園芸産地支援第一係)